

えべつ型コミュニティ・スクール



江別市教育委員会

江別市では、江別市の伝統（教育のまち江別：オール江別で子どもたちを育てる）を土台にして、新たに地域住民が①学校運営参画②学校支援③学校評価を一体的・持続的に実施していく仕組みを「えべつ型コミュニティ・スクール」（えべつ型CS）として整え、学校と地域住民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくりを進めます。

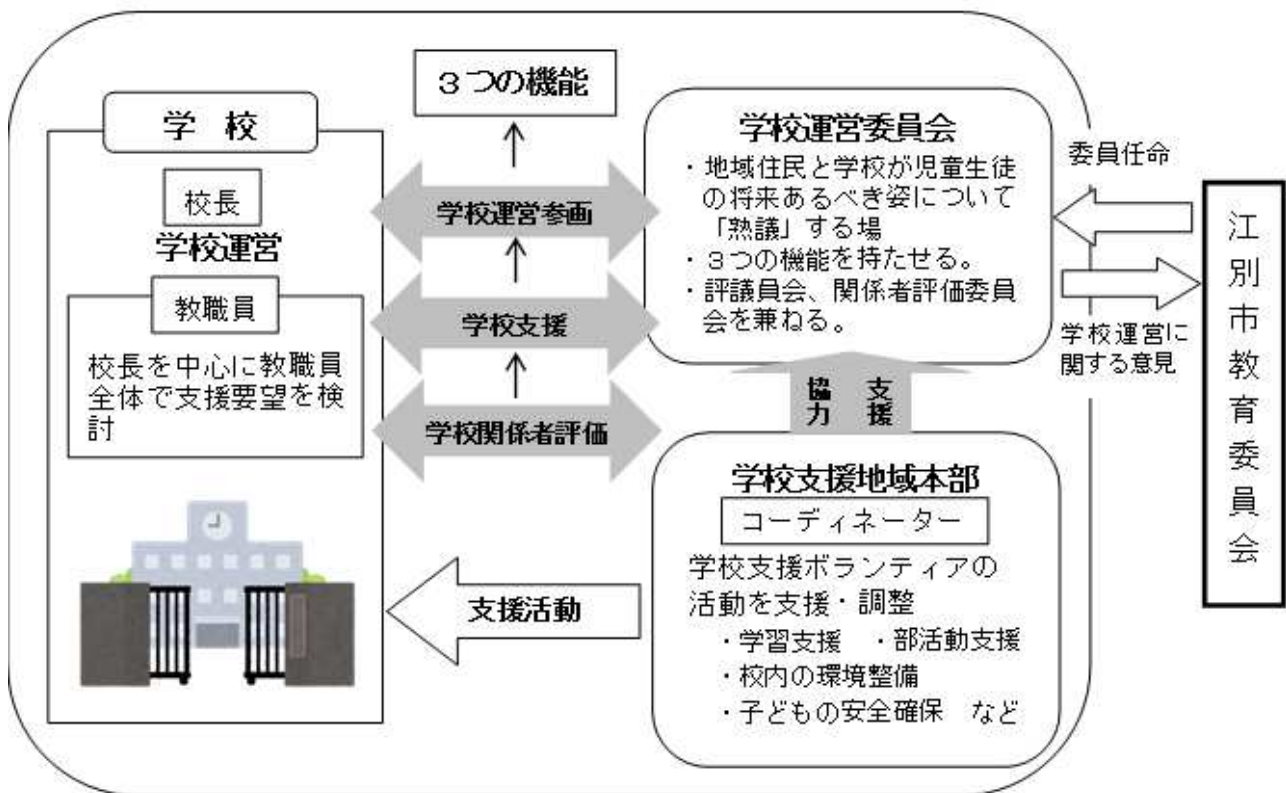
えべつ型コミュニティ・スクールとは・・・

えべつ型コミュニティ・スクールとは、地域住民の皆さんに、日常的に学校に来ていただき、子どもたちのことを支援していただいたり、子どもの教育や学校運営について話し合うなど、学校と地域が「こんな子どもを育てたい」という願いを共有しながら、一体となって子どもを育てる持続可能な仕組みを持った地域と共にある学校です。

そのためにまず、各学校に学校運営委員会を設置し、学校と地域の協働を推進します。

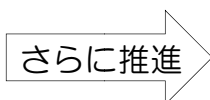
◆えべつ型コミュニティ・スクールの3つの機能

- ①学校運営委員会の熟議を通じた学校運営への参画
- ②学校支援に関する方向付けや調整等の協議
- ③学校関係者評価の実施



【江別市の伝統】

- 学校を大切にする風土
- 地域に根ざした教育



【えべつ型CS】

仕組みとその運用による持続的な協働

今、なぜ地域との協働なのでしょう

◆社会情勢の中でますます高まる必要性

変動の激しい社会の中で地域との協働（開かれた学校づくり）の必要性が以下の視点から高まっています。

- 社会が複雑化し多様なニーズを抱える学校教育の質的・量的な充実を図るために
- 社会的自立につながる体験・交流や、郷土への愛着を育む地域学習を進めるために
- 地域住民の生きがいや学びの場づくりのために
- 過疎化や高齢化、絆の低下の中で、学校を核とした地域の活性化や地域の教育力の向上のために

◆市内の状況と課題

市内では、伝統的にどの学校も地域に根ざし、地域住民に支えられた教育活動が展開されていますが、

- 教員各自で地域講師を見つけて活動を行う場合、その教員の異動とともに活動が終わってしまったり、長続きしなかったりする。
- イベント的な行事になると、学校・地域双方に有用感が感じられない場合が多い。
- 学校の取組がなかなか地域に伝わってこない。

などの声や課題があるようです。

学校運営委員会の役割

◆学校運営のPDCAにかかわる3つの機能

3つの機能を一体的に果たすことで、相乗効果が生まれます。

①学校運営への参画

めざす子ども像や学校の重点目標など学校運営の基本方針

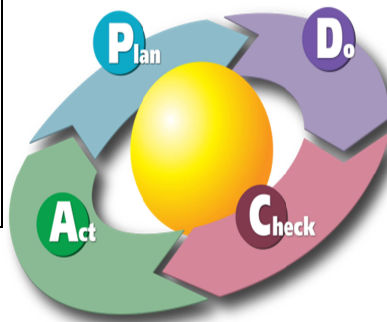


の承認について話し合うほか、学校が抱える諸課題について話し合う場（熟議）を持ちます。

そこで出された意見を、学校は有効なアドバイスとして、積極的に学校運営に生かします。

②学校支援

従来から行われている学校支援ボランティアの方向付けをしたり、年間計画の作成、調整等を行ったりします。



③学校関係者評価

学校が行う自己評価について、学校関係者評価を行い、学校運営に反映させます。

◆学校運営委員会の構成

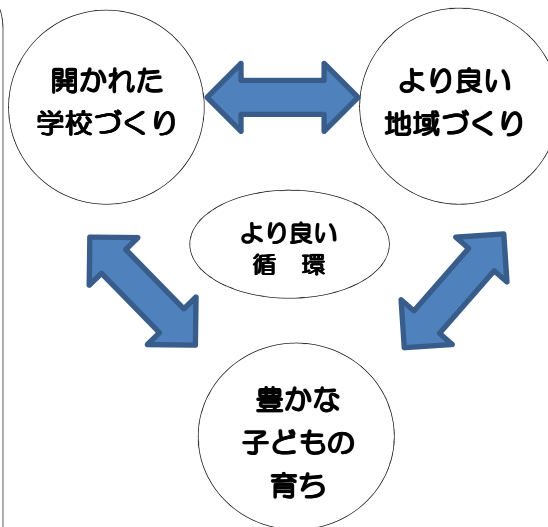
学校運営委員会では、従来の学校評議員会、学校関係者評価委員会を包含します。

構成メンバーは、学校支援ボランティアや従来の組織である学校評議員会、学校関係者評価委員会、子どもの育成に関わる方などに参加してもらいます。

- (例)
- 学校支援ボランティア
 - PTA 関係者
 - 学校評議員
 - 学校関係者評価委員
 - 民生委員
 - 自治会関係者
 - 校長、教職員等

えべつ型コミュニティ・スクールを整え、学校と地域住民の協働による地域とともにある学校を実現することで、以下のことがこれまで以上に充実します。

- 地域や保護者との信頼関係が高まります。
- 学校の課題を地域全体で取り組み、課題解決につながります。
- 学校教育が質的にも量的にも充実します。
 - ・体験や交流、地域学習の充実
 - ・授業の補助
 - ・環境整備
 - ・安全の確保
- 専門的な技能や経験を持つ地域の方と交流したり、地域素材を教材化したりすることで、教員の資質向上にもつながります。



- 学校支援をきっかけに、地域においても地域全体で子どもを育てる気運が高まり、地域や家庭の教育力が向上します。
- 子どもを縁に地域の絆が深まり、地域が元気になります。
- 子どもに教えたり、触れあったりすることで、地域住民の成長や生きがいにもつながります。



- 多様な地域の方と触れあうことで、人と関わる力を高めたり、生きる（学ぶ）目的や目標をつかんだりして、社会で生きていく力を高めることにつながります。
- 地域の人・もの・ことに触れることで地域の良さを実感して愛着を深めます。
 - 地域に関わる学習が充実して学習の楽しさや学びがいを感じ取ることで、学習意欲や学力の向上につながります。

◆地域と一体となって課題解決に取り組む

先行して実践している地域の学校では、仕組みを通じて地域と願いや課題を共有し取り組んだことにより、様々な成果が見られます。

- ・「生徒指導の事案が減り、授業に専念できるようになった。」
- ・「地域の中で子どもたちが挨拶をするようになった。」
- ・「地域住民からの苦情の電話が減り、協力的になった。」
- ・「教室に入れず保健室で過ごしていた生徒が減った。」等々

えべつ型コミュニティ・スクールの仕組み自体は、目的ではなく課題解決の手段となるものです。どんな目的を持たせるかは、各学校によりますが、地域の皆さんと取り組むことで、様々な成果を生み出すことができます。

今後は、地域住民・保護者の理解を深めながら

仕組みをつくりそれを活用していくには、教職員はもちろん、地域住民や保護者等学校や子どもの教育に関わる様々な立場の方の理解と協力が必要になります。

江別市教育委員会では、えべつ型コミュニティ・スクールを導入するにあたり、「児童生徒のために」を第一義に、「地域とともにある学校づくり」を進めてまいります。

■お問い合わせ先

江別市教育委員会総務課

住所：江別市高砂町24番地の6

Tel：381-1057 Fax382-3434